



▲阪南中央病院屋上から見た大泉緑地
手前が松原地区。田畑や新池(左中央)をはさんで
後方に大泉緑地が広がる。



▲新池(南新町4丁目)から見た
大泉緑地松原地区(中央の樹木)

防空緑地計画から総合公園へ
清水に拡大する緑地松原地区

松原市民のオアシスの一つに、府営大泉緑地があります。大泉池、中央花壇、大芝生広場を中心に約三三〇種、三十五万本の樹木が植えられた自然あふれる一〇・五haの一大緑地です。松原市の観光親善大使になっている地元出身バンドのフランブル初の野外コンサートも大泉緑地で二日間に行われて行われました(平成二十七年八月)。

一般的には、総合公園は堺市北区金岡町や松原市域に隣接する南花田町・中村町にまたがる広大な敷地です。しかし、飛地になっていますが、松原市域にも大泉緑地が広がっていることを、市民の方もあまりご存じありません。布忍小学校の南西側、阪南中央病院の西側の公園(南新町四丁目)が大泉緑地松原地区とよばれています。府道堺大和高田線と、大阪狭山線で区切られています。新町南公園(南新町三丁目、歴史ウォーク²⁴)の西北側にあたります。もともと、大泉緑地の造成は、昭和十六年(一九四一)十二月にさかのぼります。大阪府が無秩序に自然が破壊されることを防ぐため、府域を区切って都市部を取り囲むように二重の環状緑地帯にしようとした。その一つが大泉緑地です。同時に服部緑地(豊中市)、鶴見緑地(大阪市鶴見区・守口市)、久宝寺緑地(八尾市)も

整備され、今では大阪府の「四大緑地」とよばれています。

当初、都市化の拡大を防ぐ緑地計画としてつくられた大泉緑地でしたが、まもなくアジア太平洋戦争の激化に伴い、緑地計画が大阪防空緑地計画に変わっていったのです。昭和十八年(一九四三)、緑地は空襲時の避難地、あるいは延焼防止帯としての役目を担うようになりまし。さらに、敵機を撃退するための高射砲や兵舎などの軍事施設も建設されていきました。

こうした軍国化した役割を持たされた大泉緑地がそこから解放されたのは、戦後の昭和二十一年(一九四六)のことでした。いったん農地解放で元の所有者に返還された土地は、再び大阪府が買収しました。府はその後、昭和四十四年(一九六九)四月、「都市の中の森林」というコンセプトのもと、現在のような都市公園としての本格的な整備を始め、順次開設されていったのです。

それでは、松原地区の開設はいつから始まったのでしょうか。大泉緑地管理事務所が教えていただきました。当初、緑地は堺市域だけでしたが、昭和五十二年(一九七七)七月、緑地整備事業は、堺だけでなく、市域河合に接する南限の北八下小学校(堺市北区中村町)沿いの府道大阪狭山線西側から北側の堺大和高田線までを緑地化する計画をたてたのです。

それを受けて、昭和五十五年(一九

八〇)八月、まず現公園化されている南新町四丁目の松原地区の整備に着手したのです。そして、翌五十六年四月一日、木々におおわれた松原地区緑地を含む八〇haがオープンしました。同時に、児童遊具も設置されました。さらに、五十七年二月および平成十年(一九九八)三月、児童遊戯場や遊具が一部改修され、より整備が加速していきました。

その後も、平成十一年(一九九九)三月、これまで緑地だけであった同地南側に松原地区広場が完成し、多くの人々が球技を楽しんでいます。二面あり、自由広場(1)(2)と称されています。

同地は、布忍地区が昭和四十八年(一九七三)に新町地区(南新町・北新町・東新町)と住居表示の町名が変更されるまで、清水町とよばれていました。古くからの集落は、北側の長尾街道沿いに建っており、公園あたりは南清水とよばれ、ため池や田畑が広がっていました。

現在、緑地自由広場に接して新池が水をたたえています。一、一haの池敷面積を持っており、清水地域の田畑に水を送っていました。府は、将来的には新池周辺を含めて現開設公園まで大泉緑地をつなげる予定です。

拡大の具体化はこれからですが、府は緑地を広域避難地や後方支援活動拠点として位置づけており、堺・松原市にまたがる新大泉緑地を誕生させる方向で計画が生き続けています。